



—— しなやかに、限りなく  
MOTION & CONTROL ——

● は当社地域統括拠点

# (株主通信) 第154期 中間報告書

平成26年(2014年)4月1日から  
平成26年(2014年)9月30日まで

日本精工株式会社

## 目次 | CONTENTS

企業理念・経営姿勢／連結決算ハイライト	1
株主の皆様へ	2-5
連結財務諸表(要旨)	6

## ZOOM UP

NSKの成長を牽引するステアリング事業	7-8
会社情報	9
株式情報	10

## 企業理念

NSKは、MOTION & CONTROLを通じ、円滑で安全な社会に貢献し、地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、国を越えた人と人の結びつきを強めます。

## 経営姿勢

- 1 世界をリードする技術力によって、顧客に積極的提案を行う。
- 2 社員一人ひとりの個性と可能性を尊重する。
- 3 柔軟で活力のある企業風土で時代を先取りする。
- 4 社員は地域に対する使命感をもとに行動する。
- 5 グローバル経営をめざす。

(NSK企業理念体系より)

## ● 中間配当について

当期の中間配当金は下記のとおりです。

1. 中間配当金 **1株につき12円**
2. 中間配当の効力発生日  
並びに支払開始日 **平成26年12月2日(火)**

## ❖ 連結決算ハイライト

## 売上高

平成26年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

4,136億円

前年同期比  
**+12.3%**

平成27年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

4,644  
億円

## 営業利益

平成26年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

288億円

前年同期比  
**+41.7%**

平成27年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

407  
億円

## 経常利益

平成26年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

281億円

前年同期比  
**+45.4%**

平成27年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

409  
億円

## 当期純利益

平成26年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

147億円

前年同期比  
**+75.5%**

平成27年3月期  
第2四半期  
連結累計期間

259  
億円



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、当社第154期中間報告書(平成26年4月1日から平成26年9月30日  
 日まで)をお届けいたしますので、ご高覧のほどお願い申し上げます。  
 株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、  
 宜しくお願い申し上げます。

取締役 代表執行役社長 **大塚 紀男**

## 連結決算の概況

当社グループは、平成28年の創立100周年における売上高1兆円を目指し、平成25年4月より3年間の中期経営計画に取り組んでおります。事業戦略としては「収益重視の成長」、経営基盤の強化に向けては「1兆円の物量を回す管理能力の構築」を推進しております。

当第2四半期連結累計期間の世界経済を概観すると、日本では、景気の緩やかな回復が続きましたが、消費税増税後の反動減からの持ち直しに鈍さもみられました。米国経済は回復基調が続く、欧州では景気の持ち直し傾向が続きました。アジアでは、インドで景気の持ち直しの動きがみられたものの、アセアンは総じて景気が足踏み状態となり、中国は景気拡大のテンポが鈍化しました。

このような経済環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,644億円と前年同期に比べて508億円(+12.3%)

の増収となりました。営業利益は407億円と前年同期に比べて120億円(+41.7%)の増益となり、経常利益は409億円と前年同期に比べて128億円(+45.4%)の増益となりました。税金費用、少数株主利益を控除した結果、四半期純利益は259億円と前年同期に比べて111億円(+75.5%)の増益となりました。

## 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営方針の一つとしております。配当につきましては、安定的な配当を継続実施していくことを基本としつつ、連結ベースでの配当性向や業績水準等を勘案して決定したいと考えております。この基本方針のもと、当期の中間配当金につきましては、1株当たり12円で実施いたします。また、期末配当金については、1株当たり12円を予定しております。

## セグメント別の概況

### 産業機械事業

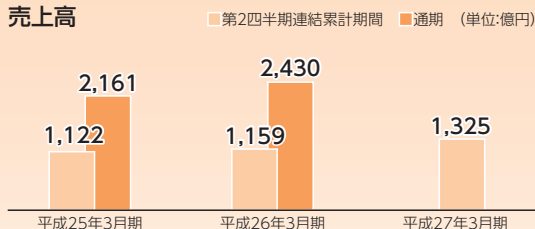
#### 売上高

**1,325** 億円  
(前年同期比14.3% )

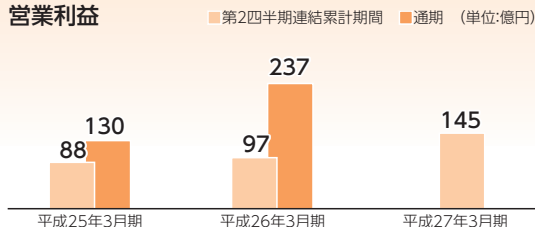
#### 営業利益

**145** 億円  
(前年同期比49.3% )

#### 売上高



#### 営業利益



産業機械事業  
**28.5%**

売上高

産業機械関連需要は、世界全体で緩やかな回復傾向が続いています。地域別にみると、日本では、スマートフォン関連設備需要の好調が続き、産業機械軸受や精密機器関連製品の売上高が増加しました。米州では、一般機械向けやアフターマーケット向けを中心に増収となりました。欧州では、風力発電向けや工作機械向けなどの売上高が増加し、アフターマーケット向けも増収となりました。中国では、鉄道車両向けや風力発電向け需要が景気刺激策も寄与して好調が続き、工作機械向けや精密機器関連製品も堅調に推移し売上高が増加しました。アセアンでは市場の停滞が続きましたが、自動車補修向けや情報機器関連向けを中心に産業機械軸受の売上高が増加しました。

この結果、産業機械事業の売上高は1,325億円(前年同期比+14.3%)、営業利益は145億円(前年同期比+49.3%)となりました。

### トピックス

#### 工作機械主軸軸受用グリス 『RACEGRD™(レースガード™)』

高速回転への対応と高荷重下での耐焼き性などの信頼性を向上させたグリスを開発し、工作機械の主軸向けに平成27年4月から市場へ投入します。本製品は、工作機械の生産性の向上や小型・軽量化による省エネや省スペースに貢献します。



#### 高速・静音Ⅱボールねじ

近年、産業機械の小型・軽量化により生産現場の静音化が進展しております。これにより、従来問題とならなかったボール転走音による機械の共鳴・共振音への対策が求められています。「高速・静音Ⅱボールねじ」は、このようなニーズに応え、ボール転走音を大幅に低減し、産業機械の高速化と低騒音化の両立に貢献しています。

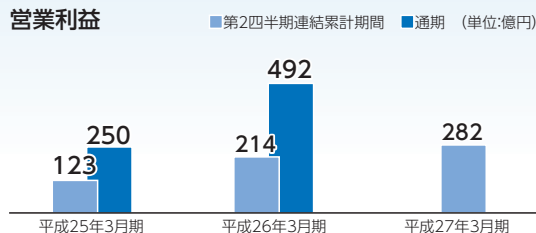
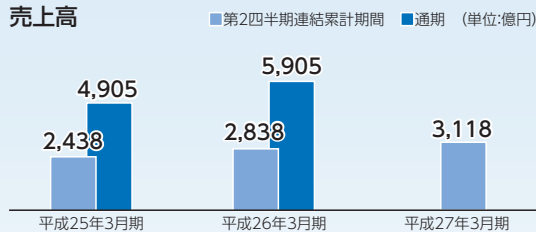


その他  
4.4%

構成比

自動車事業  
67.1%

## 自動車事業



### 売上高

3,118億円

(前年同期比9.9% )

### 営業利益

282億円

(前年同期比31.7% )

自動車市場は、中国での需要の伸びに鈍化がみられますが、グローバルでは緩やかな成長が継続しております。地域別にみると、日本では、消費税増税後の反動減の影響は軽微なもの、自動車メーカーによる海外現地調達に対応した当社生産の海外移転の影響により売上高が減少しました。米州は、北米市場が好調に推移し、日本からの生産移転による効果もあり増収となりました。欧州では、西欧を中心に自動車市場の持ち直し基調が継続し、為替の効果もあり増収となりました。中国では、電動パワーステアリングが新規受注効果も寄与して大幅な増収となり、欧州系・日系向けを中心に自動車軸受の売上高が増加しました。その他アジアでは、各国の市場にばらつきがありましたが、日系・韓国系向けに売上高が増加しました。

この結果、自動車事業の売上高は3,118億円(前年同期比+9.9%)、営業利益は282億円(前年同期比+31.7%)となりました。

## トピックス

### Daimler AG社での自動車ホイール用軸受の採用

Daimler AG社の新型高級車に当社製の自動車ホイール用軸受が採用されました。車両開発の初期段階から参画し量産化に成功。当社は、開発力をベースとしてグローバルな有力カーメーカーとの関係を強化し、顧客ポートフォリオの拡大を進めてまいります。



### 自動車部品の地域別事業規模で中国がトップに

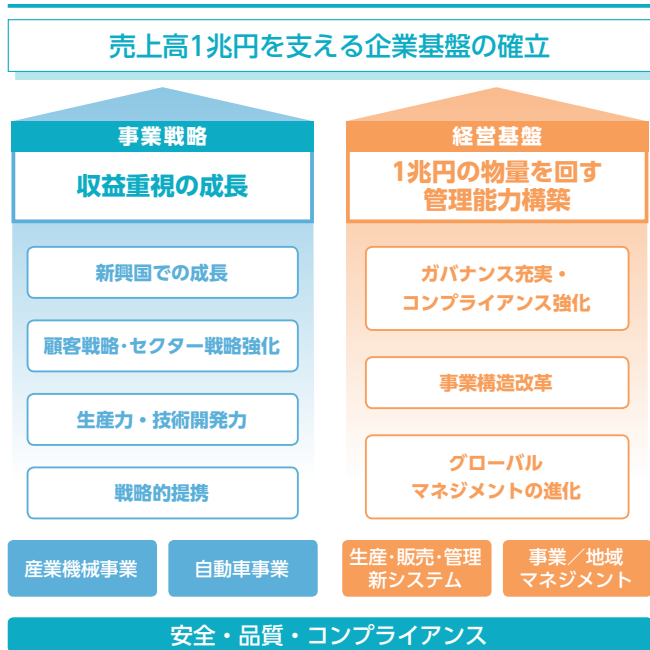
欧州カーメーカー向けの新規車種立ち上げや、日系カーメーカー車種の堅調な売れ行きで、電動パワーステアリングの販売と生産が大きく伸びた中国が、地域別事業規模で日本を超えトップとなりました。



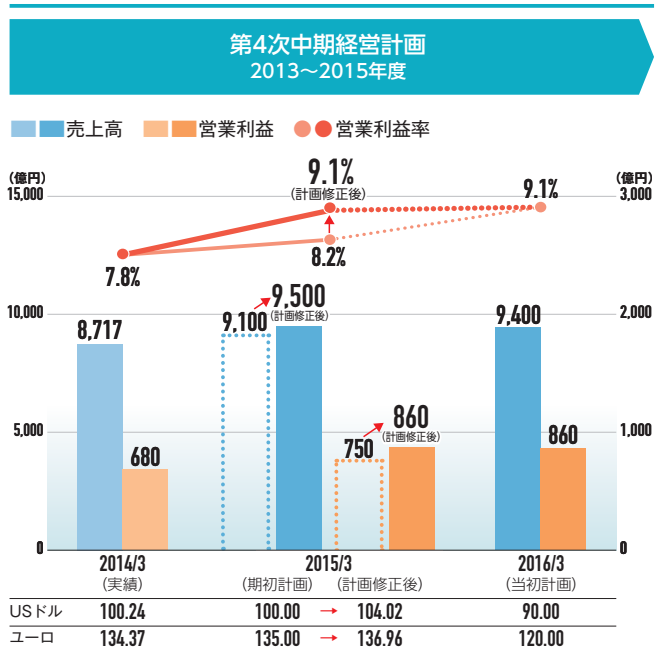
## 中期経営計画の進捗について

当社は、現在2013年度から2015年度までの3年間の第4次中期経営計画に取り組んでいます。創立100周年を迎える2016年度での売上高1兆円とその先の持続的成長を可能とする基礎づくりのために、「売上高1兆円を支える企業基盤の確立」をビジョンに掲げ、安全・品質・コンプライアンスの土台の上に、事業戦略として「収益重視の成長」を、そして経営基盤強化を目指し「1兆円の物量を回す管理能力の構築」を図っています。

### 第4次中期経営計画の骨子



### 第4次中期経営計画 売上高・営業利益推移



### 事業戦略と経営基盤の強化に向けて

2年目となる当期は、最終年度に向けその橋渡しとなる重要な1年としてスタートしましたが、売上高・営業利益・営業利益率ともに、中期計画目標を前倒しで達成する水準の進捗を示しています。経済環境は一部不透明感が出てきていますが、産業機械事業は緩やかな需要回復を見込み、一方、自動車事

業も堅調な米国市場や中国での電動パワーステアリングの拡大などに支えられ拡大を予想しています。中期経営計画の各施策目標についても、着実に取り組みを進め、中期計画ビジョンの実現を果たして参ります。



## 四半期連結貸借対照表

単位：百万円

科目	平成27年3月期 第2四半期 連結会計期間 (平成26年9月30日)	平成26年3月期 連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	569,610	520,614
現金及び預金	68,813	68,319
受取手形及び売掛金	171,096	165,808
有価証券	131,236	100,181
棚卸資産	144,160	131,735
その他の流動資産	54,304	54,569
固定資産	486,825	480,317
有形固定資産	312,260	304,169
無形固定資産	11,836	12,278
投資その他の資産	162,729	163,869
資産合計	1,056,436	1,000,932
<b>負債の部</b>		
流動負債	320,918	331,445
支払手形及び買掛金	138,865	130,745
短期借入金	113,483	110,666
その他の流動負債	68,569	90,034
固定負債	324,027	287,330
社債	60,000	20,000
長期借入金	183,174	184,866
その他の固定負債	80,852	82,464
負債合計	644,945	618,776
<b>純資産の部</b>		
株主資本	367,050	352,107
資本金	67,176	67,176
資本剰余金	78,793	78,560
利益剰余金	225,262	210,739
自己株式	△ 4,181	△ 4,369
その他の包括利益累計額	21,737	7,094
その他有価証券評価差額金	34,990	31,387
為替換算調整勘定	△ 3,132	△ 14,067
退職給付に係る調整累計額	△ 10,120	△ 10,225
新株予約権	231	328
少数株主持分	22,471	22,626
純資産合計	411,490	382,155
負債純資産合計	1,056,436	1,000,932

## 四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	平成27年3月期 第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日 ～平成26年9月30日)	平成26年3月期 第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日 ～平成25年9月30日)
売上高	464,390	413,603
売上原価	360,544	327,667
売上総利益	103,846	85,936
販売費及び一般管理費	63,099	57,183
営業利益	40,746	28,752
営業外収益	4,697	3,925
営業外費用	4,516	4,537
経常利益	40,927	28,140
特別利益	—	3,358
特別損失	3,025	6,749
税金等調整前四半期純利益	37,901	24,750
法人税等	10,679	8,708
少数株主損益調整前四半期純利益	27,222	16,041
少数株主利益	1,331	1,291
四半期純利益	25,890	14,749

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	平成27年3月期 第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日 ～平成26年9月30日)	平成26年3月期 第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日 ～平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,358	27,244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,057	△ 18,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,469	△ 13
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,494	917
現金及び現金同等物の増減額(△：減少)	31,266	9,639
現金及び現金同等物の期首残高	168,940	141,653
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△：減少)	—	22
現金及び現金同等物の四半期末残高	200,206	151,316

# NSKの成長を牽引するステアリング事業

1916年に日本で初めて軸受を国産化し、約100年の歴史を持つ当社は、ステアリング(舵取り装置)メーカーとしても50年以上の歴史を持っています。電動パワーステアリング(以下EPS)やステアリングコラムなどのステアリング製品は、ドライバーが進みたい方向に「曲がる」ための重要部品です。

当社は、自動車の安全性と快適性に貢献する高品質なステアリング製品を開発・製造し、ステアリング事業を拡大しております。



## 1 NSKのステアリング事業の歴史

- |      |   |
|------|---|
| 1959 | ボールねじの技術を応用して、ボールスクリュー式ステアリング・ギアを開発。                        |
| 1961 | 北日本精工(株)として、群馬県前橋市鳥羽町でステアリング製品の生産を開始。                       |
| 1968 | <b>ステアリングコラムを開発。</b>  |
| 1975 | 前橋市総社町に総社工場を設立し、操業を開始。                                      |
| 1986 | フォークリフト向けに世界で初めてEPSを開発。                                     |
| 1988 | 米国バーモント州にステアリングの初の海外工場を設立。以降、欧州、タイ、インド、中国にステアリング工場を設立。      |
| 1989 | 軽自動車向けにEPSの量産を開始。前橋市に赤城工場を設立し、操業を開始。                        |
| 2006 | <b>EPSの売上500億円突破。</b>                                       |
| 2010 | (株)東芝と合併で、EPSの電子制御に関する研究開発会社を設立。<br><b>EPSの売上1,000億円突破。</b> |
| 2011 | 前橋地区でのステアリング生産開始50周年。                                       |
| 2012 | <b>EPSの売上2,000億円突破。</b>                                     |



## 2 EPSの特長

### ① 燃費向上への貢献

従来、広く採用されていた油圧パワーステアリングは、ハンドルを操作する力を軽くするため、エンジンの力を使って常時油圧ポンプを回転させています。一方、EPSは、曲がる時だけモーターで、ステアリング操作をアシストします。このため、エンジンの力のロスがなく、油圧パワーステアリングに比べて、3~5%燃費を向上できます。

### ② 電子制御を活用した安全性と快適性の向上

EPSは、油圧パワーステアリングに比べて、電子制御が容易にできます。路面から伝わる様々な情報をセンサーで収集し、電子制御プログラムによって、不快な振動を打ち消したり、滑りやすい路面でもより安全に走行したりすることも可能です。

## 3 EPS事業の拡大

近年、グローバルな自動車需要拡大に伴い、当社の自動車関連製品の需要は大幅に拡大しています。特にEPSは、油圧パワーステアリングに代わり、多くの自動車で採用が進み、グローバルに需要が急拡大しています。

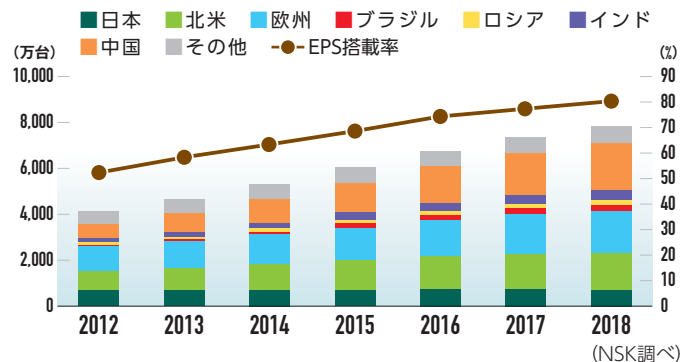
なかでも当社が得意としているコラムタイプEPSは、小型車に最適であり、新興国での小型車需要の増加を背景に、今後も需要の拡大が期待できます。



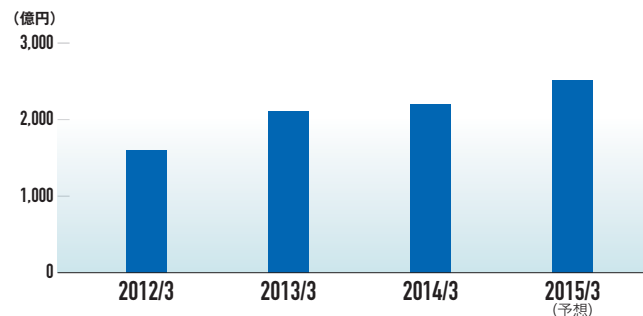
コラムタイプEPS

市場の拡大の中、当社は、グローバル7ヶ所のテクノロジーセンターを展開することで、安全・快適性などの高度化する技術ニーズに対応し、国内外10工場のグローバル供給体制を活用して、ステアリング事業の売上を拡大していきます。

### EPSの地域別搭載台数・搭載率



### EPS売上高



## 会社概要

会社名	日本精工株式会社 (NSK Ltd.)
本社	東京都品川区大崎一丁目6番3号
設立	大正5年(1916年)11月8日
資本金	671億円
従業員数	6,390名 (NSKグループ 31,131名)
主な事業内容	産業機械軸受、精密機器関連製品、 自動車軸受、自動車部品の製造及び販売



## 役員

取締役(代表執行役社長)	大塚 紀男	社外取締役	釜 和明	執行役常務	池村 幸雄	執行役	伊藤 裕之
取締役(代表執行役専務)	内山 俊弘	社外取締役	田井 一郎	執行役常務	中島 秀雄	執行役	池田 新
取締役(代表執行役専務)	松原 正英	執行役常務	ルバルト・シュナイダー	執行役常務	麓 正忠	執行役	篠本 正美
取締役(代表執行役専務)	満江 直樹	執行役常務	荒牧 宏敏	執行役常務	鈴木 寛	執行役	小林 克視
取締役(執行役専務)	芝本 英之	執行役常務	波田 安継	執行役常務	新井 稔	執行役	榎本 俊彦
取締役(執行役専務)	鈴木 茂幸	執行役常務	後藤 伸夫	執行役	小木曾文雄	執行役	織戸 宏昌
取締役(執行役常務)	野上 宰門	執行役常務	杉本 直樹	執行役	松本 保	執行役	ユルガン・アッカーマン
取締役	市川 達夫	執行役常務	神尾 泰宏	執行役	宮崎 裕也	執行役	入谷 百則
社外取締役	鈴木 和男	執行役常務	井上 浩二	執行役	村田 一成	執行役	高山 優
社外取締役	小原 之夫	執行役常務	パーナード・リンゼイ	執行役	エイドリアン・ブラウン	執行役	伊集院誠司

## NSKホームページの投資家情報サイトのご案内

➤ 投資家情報 <http://www.jp.nsk.com/investors/>

NSKは「投資家情報」サイトに社長メッセージや決算説明資料、財務・業績情報、株式情報などを掲載しております。また株主の皆様により深くNSKのことをご理解頂くために開示情報の内容充実にも努めております。

### 主な内容

- ◎ 社長メッセージ
- ◎ 業績ハイライト
- ◎ 株主総会
- ◎ 個人投資家の皆様へ
- ◎ よくあるご質問
- ◎ セグメント情報
- ◎ 株式・格付情報
- ◎ IRイベント、IR資料集
- ◎ 電子公告
- ◎ IRIに関するお問い合わせ



## 株式の状況

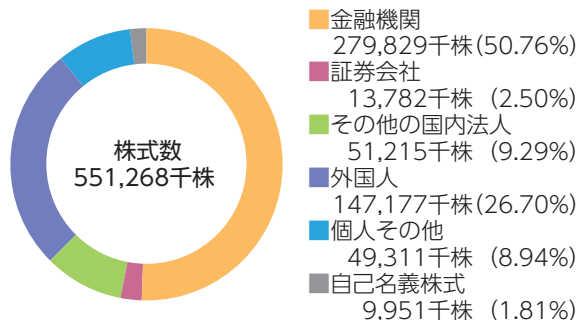
発行可能株式総数	1,700,000,000株
発行済株式総数	551,268,104株
株主数	17,796名

## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	52,568	9.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,836	5.14
富国生命保険相互会社	27,600	5.09
日本生命保険相互会社	27,518	5.08
明治安田生命保険相互会社	26,726	4.93
株式会社みずほ銀行	18,211	3.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	10,709	1.97
トヨタ自動車株式会社	10,000	1.84
株式会社三菱東京UFJ銀行	8,675	1.60
日本精工取引先持株会	7,011	1.29

(注) 持株比率は、自己株式(9,951千株)を控除して計算しております。

## 所有者別分布状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話センター 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ証券株式会社 本店、全国各支店 及び営業所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告にて行います。 <a href="http://www.jp.nsk.com/">http://www.jp.nsk.com/</a> 但し、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告をすることができ ない場合は、東京都において発行す る日本経済新聞に掲載する方法によ り行います。

- 住所変更等につきましては、株主様の口座のある証券会社  
にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別  
口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関  
であるみずほ信託銀行にお申出ください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行及びみず  
ほ銀行の本店及び全国各支店でお支払いいたします。

## 株主様へのお知らせ

### 配当金の口座振込をご存知ですか？

#### 郵便局の窓口でのお受け取りの場合

- ◎ 受け取り忘れのリスクがあります。
- ◎ 郵便局に出向く手間がかかります。



#### 口座振込のお手続きを済ませますと…

ご指定の口座に振り込まれるため、  
確実に受け取りいただけます。

#### ■ お手続きに関するご質問

- 1 証券会社に口座をお持ちの場合、  
**お取引の証券会社へ**
- 2 証券会社に口座をお持ちでない場合、  
**みずほ信託銀行(株)<sup>※</sup>へ**

(特別口座へ記録されている場合)

お問い合わせください。

※みずほ信託銀行(株)証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324



日本精工株式会社  
ホームページアドレス  
▶ <http://www.jp.nsk.com/>

